

Suzaku-MAXI国際研究会 (Suzaku-MAXI conference 2014)

主催：愛媛大学、宇宙科学研究所 / 共催：理化学研究所 / 支援 宇宙科学振興会

開催期間：2014年2月19日（水）～ 22日（土）

開催場所：松山市 愛媛大学

代表者：LOC委員長 栗木久光（愛媛大学）

SOC委員長：石田 学（宇宙科学研究所）

Suzaku「すざく」は我が国第6番目のX線天文衛星として2005年7月10日に内之浦宇宙センターから打ち上げられました。それ以来、我々X線天文学コミュニティは、2006年12月に京都、2007年12月にSan Diego、2009年6月に小樽、2011年7月にStanfordと、これまで4回、すざくの結果を中心とする国際会議を開催してきました。いっぽうで2009年8月からは、宇宙ステーション・きぼうの船外実験プラットフォームに設置された全天X線監視装置 (MAXI) も稼働しています。天空の一点に視野方向を固定して暗い天体まで高い精度で観測することを得意とする「すざく」と、広い視野を見渡して突発天体を発見することを得意とするMAXIの能力は相補的であり、そのデータを組み合わせることでこれまでにない優れた科学的な成果を期待することができます。こうした事情から、今回は「すざく」とMAXIの観測結果を一堂に集め、Suzaku-MAXI 国際会議2014と題した国際研究会を、風光明媚な愛媛県松山市にて開催しました。

開催期間は2月19日(水)から22日(土)午前であり、この間の参加者数は220名を超えました。海外からもアメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、オランダなどおよそ10カ国45名の参加があり、国際会議としてふさわしいものとなりました。会議は、SOC chairの石田によるwelcome addressで始まり、Suzaku、MAXIそれぞれの現状報告を行った後、両観測装置による成果が発表されました。発表数は、招待講演23、一般講演34、ポスター発表約150あり、この会議の副題「Expanding the Frontiers of the X-ray Universe」にふさわしく、様々なtopicsについて新しい成果が報告され、活発な議論が行われました。最後に会議の総括を行ったMushotzky博士は、

“ There were VERY MANY totally new results... our field is very rich and new discoveries, enabled by better analysis techniques, more sophisticated modeling and deeper data, are occurring. ”

と述べ、この会議が非常に有意義なものであったと評しました。Suzaku、MAXIが提供する新しいデータ、そして、データを解釈するための手法の改善の両方がうまく噛み合いフロンティアを力強く推し広めることにつながったものと思います。また、今回の会議でも、博士課程の大学院生やポスドク研究員からの多くの口頭発表／ポスター発表があり、人材育成面でも貢献するものとなりました。

近い将来、ASTRO-H衛星計画など、最新の観測装置を搭載した衛星が登場し、新しい目で宇宙を観測することが可能となります。今回の研究会で得た新しい知見は、次のサイエンスにつながるものになると確信しております。

松山は道後温泉や松山城などで有名で、参加者は会議の前後や合間の時間でこれらを始めとする施設の観光を楽しんでいたようです。

今回の会議を開催するにあたり、宇宙科学振興会に大変厚いご支援をいただいたことで、多くの参加者が参加する有意義なものとなりました。深く感謝いたします。

講演発表風景



会場で撮影した集合写真



主催者LOC代表として挨拶する愛媛大学栗木教授